

川と折り合いをつけて生きた江戸時代 現代は手なずけたはずの川が逆襲

霞堤 (Wikipedia) によると、霞堤には2通りあり、新聞記事では緩流河川型霞堤を言っている。

### 急流河川型霞堤

常願寺川や手取川のような急流河川では、二番堤、三番堤・・・と言われるように、本堤が破堤してもその氾濫水を次の堤防で待ち構え、被害拡大を防止し、またその流れを速やかに本川に戻す氾濫還元機能になる。

### 緩流河川型霞堤

豊川のような緩流河川では、増水時に不連続部となるに本堤開口部より二番堤堤外へ逆流氾濫させて貯水する。

日本経済新聞 2020.7.18夕

●海と水辺の散歩● あえて不完全な堤防

**自然生かした洪水対策**

大分県豊後大野市の宇対で両手を並べて喜んだ、と  
 編(うたいせ) 豊後(あまの) 豊後(あまの) 豊後(あまの)  
 8年に一度、大野川の水が、大野川の事例を見た  
 あふれ浸水する。 時は正雨降いた。江戸時代  
 立派な堤防はあるが、堤には川を鉄分別々の溝が治  
 切が山際を接する部分で途 切れている。大野川は  
 切れている。大野川は (かすみて) という堤防  
 おたけで流れを左へ直前に 変え、激流対岸の地の集  
 落をしばしば襲う。こちら めに築かれ、川の近くで途  
 の堤防が途切れていて増水 切れる。これを幾層にも配  
 した川の水田んぼへ逃が 置したつひにならうとい  
 すことで、対岸の洪水被害 る。増水すると堤防の途切  
 が軽減する仕組みだ。 れた部分から水がひたひ  
 増水時に河川の堤防が崩 と広がり出が、家屋が流  
 れると、さらさらの堤防が される方はなく、水が引  
 崩れる可能性が低くなるの 後は製作が約束される。  
 田んぼはとも水の流れや  
 土木技術が人力に頼って すい低い土地に多いとそ  
 いた時代は、強固な堤防で 意識しておきたい。そして  
 完全な防備することはな 大雨の際に何が起きるか  
 なかった。そこで強い水流 も。 都市計画を決める際にハ  
 を食い止めて、洪水のも サードマップの情報が反映  
 せられていく街は今のところ  
 こくない。数年前、川沿 安全な台地上から、3  
 5層の浸水想定地域へ移転 させた市もある。  
 過去に経験したこのな  
 いような雨が来たら、私たち  
 はより真剣に安全な場所を  
 選ぶことが大切になってい  
 る。近年、グリーンインフラ  
 という語見かけがう  
 になった。気候の緩和、非  
 水の調和、生物多様性の維  
 持など、都市の中でも自然  
 地をうまく配置していけば  
 多くの恩恵が受けられる。  
 クリーンインフラは、土  
 地利計画にも位置づけな  
 がら、自然調和した魅力  
 ある地域づくりを目標して  
 いる。昔々の知恵をなが  
 しながら、人も自然もい  
 いきとした街づくりを実現  
 していきたいものだ。  
 (NPO法人 田んぼ理事長  
 船橋 啓之)

霞堤以外にも信玄堤がよく知られています。川の流れを固定化する方法です。

[https://www.japanfs.org/sp/ja/news/archives/news\\_id035554.html](https://www.japanfs.org/sp/ja/news/archives/news_id035554.html)

甲府盆地は、御勅使川、釜無川、笛吹川の造った複合扇状地です。扇状地を流れる河川は、自然の状態では扇状地面を自由に流れますから、釜無川や御勅使川の合流する地域は、自然のままでは洪水の氾濫による水害の危険が非常に高くなります。1542年に釜無川と御勅使川が大氾濫したことが記録に残っています。

兵庫県の真ん中を北から南に流れる加古川にも升田堤があり、川の流れを固定化するのに役立ったとあります。

<http://www.gokurakuya.co.jp/kakogawa/ka9/01.html>